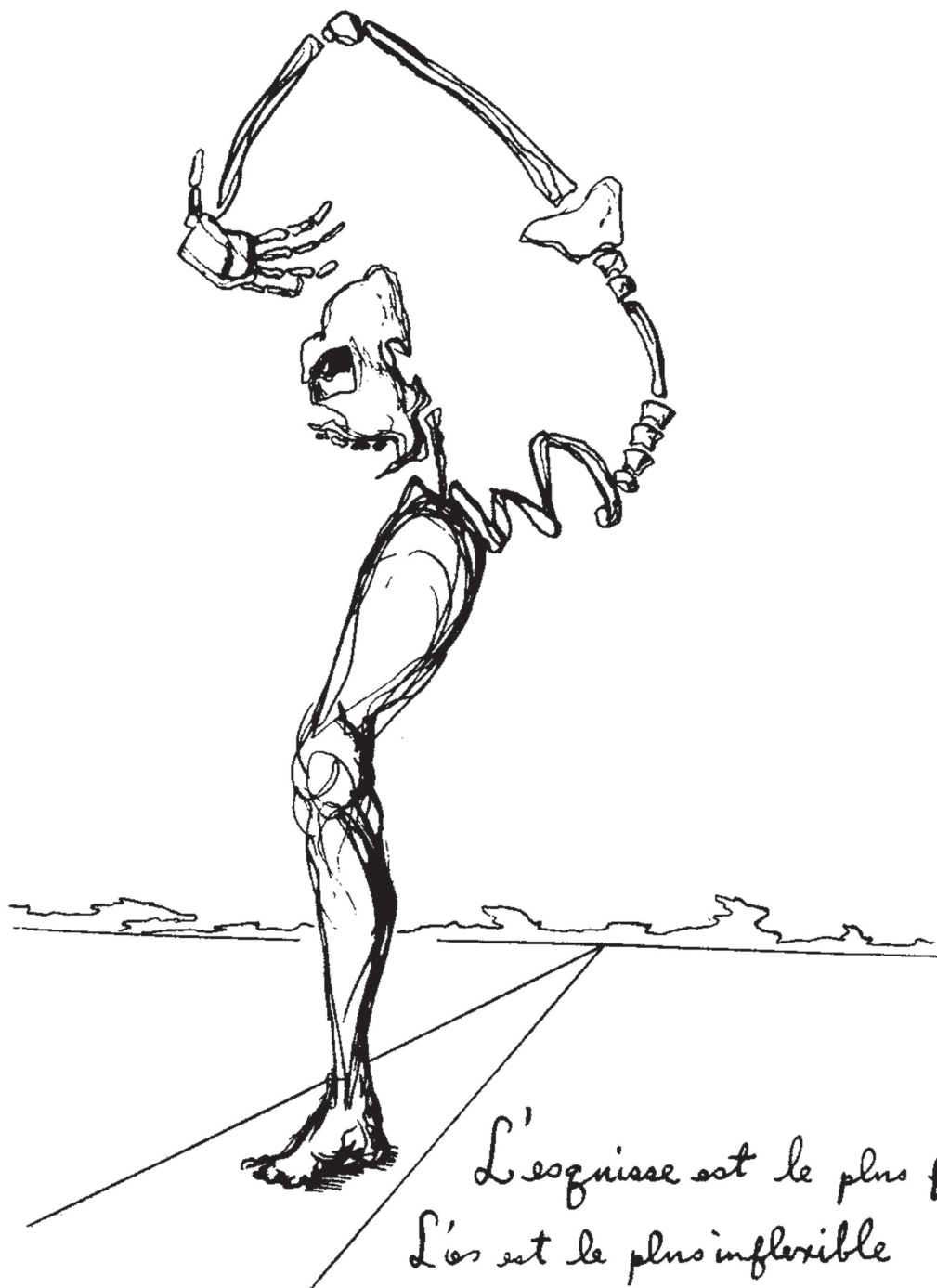


石原慎太郎 Shintaro Ishihara

# 破乱の十代のエスキース展

石原慎太郎が青春時代に描いたデッサンと空想画



*L'esquisse est le plus fort  
L'os est le plus inflexible  
C'est le point initial !*

2019年 5月25日(土) ~ 6月30日(日)

料金 一般:300(240)円 / 市内高齢者・高校生:150(120)円 ( )内は20名以上の団体割引料金  
中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介助者は無料

主催  
市立小樽文学館

後援  
小樽文学舎

協力  
石原慎太郎事務所  
石原延啓

## 講演会

石原慎太郎「文学とその時代」

2019年6月25日(火) 午後1時~2時30分

場所:市立小樽文学館 1階多目的ギャラリー

入場無料(要予約)

■ 6月1日より電話予約受付

文 市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1-9-5

TEL/FAX (0134)32-2388

小樽駅 国鉄本線	
●小樽経済センター	●サンビルスクエア
●産業会館 (新館)	●オーセントホテル小樽
●北洋銀行	●郵便局本局
●金融資料館 (旧日本銀行)	●小樽市立文学館
●京島美術館	●小樽市色内1-9-5
小樽 運河	

# 石原慎太郎 破乱の十代のエスキース展

石原慎太郎が青春時代に描いたスケッチと空想画

石原慎太郎(昭和7・1932)は、小樽にゆかりの深い作家です。氏は幼少年期を、山下汽船小樽出張所の主任だった父・石原潔と母・典子、そして後に俳優となる弟・裕次郎と共に小樽で過ごしましたが、その時代の想い出は、彼の人生観の原点となりました。昭和31年、24歳の慎太郎氏は小説「太陽の季節」を発表し、当時最年少で芥川賞を受賞。その後、小説・脚本・評論のみならず、映画製作の分野でもその旺盛な創作力を発揮。また、ヨットレースに挑んで太平洋を横断し、戦争中のベトナムへと取材に赴くなど、前時代のいわゆる文士とは一線を画する行動派の作家として活躍を繰り返しました。さらに、社会のあり方に対してアクチュアルな働きかけを行うべく、国会議員や東京都知事として務めたことも、広く世に知られているところです。政界を引退後、一時は病を得ましたが、作品発表や、折にふれての思索の発信は、現在も続けられています。

その氏が、一昨年に小樽文学館で開催された「石原慎太郎と裕次郎展」を契機として当館に御寄贈くださったのが、(十代のエスキース)と呼ばれる約二五〇枚に及ぶ絵画作品です。昭和20年代半ば、戦中戦後に価値観が激変する中、進学校の出世至上主義に堪らなく反感を覚えて高校を一年間休学した時期を中心に、ひたぶるに描かれた線描画。シュルレアリスムな感覚に満ちたそれらの作品群には、青春期の煩悶や孤独、そして、苦悩の内にも未来の可能性を求めようとする情熱が直截に表現されており、氏自身も『太陽の季節』よりもむしろこちらの方に思い入れが強い」と述べています。

躍動感に溢れるその筆致は、驚くほど、時代的な古さを感じさせません。どうかご観覧の皆様にも、氏の若き日の瑞々しい感性に触れ、そして誰でも通過する思春期の心の揺らめきに想いを馳せていただきたいと思えます。

## 〔講演会〕

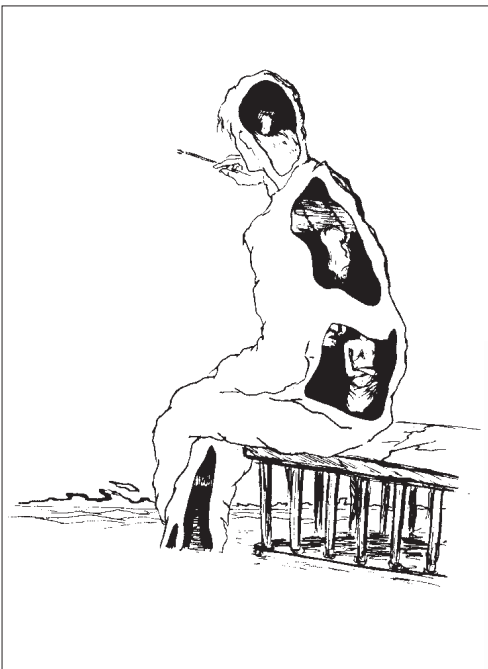
### 石原慎太郎 「文学とその時代」

令和元年(2019年)6月25日(火)

午後1時〜2時30分

市立小樽文学館 1階多目的ギャラリー

聴講無料(\*6月1日より電話予約受付)



会 期 令和元年(2019年)5月25日(土)~6月30日(日) ※毎週月曜休館  
 開 館 時 間 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 主催・会場 市立小樽文学館 〒047-0031 小樽市色内1-9-5 Tel: 0134-32-2388  
 入 場 料 一般: 300(240)円 / 高校生・市内高齢者: 150(120)円 ※〇内は20名以上の団体割引料金  
 ※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介助者は無料